

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 岡山大学

学部・研究科等名 社会文化科学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：I 教育の実施体制

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：基本的組織の編成

1) 地域公共政策コースの設置

地域における公共政策を企画・立案・評価できる政策人の育成を目指す地域公共政策コースを、平成20年度に公共政策科学専攻内に設置した。このコースは、主として岡山県を中心に中国地方の地方自治体議員や職員を対象とし、現在、地方議会議員3名及び地方公共団体職員5名が在籍している。

また、これと連動する組織として、平成21年度から地域創生ネットワーク・アゴラを設置し、活動を開始した。このアゴラとは、本研究科教員を中心とする本学教員と岡山県の経済界、行政機関の幹部職員、NPO法人主宰者などと地域創生に向けての意見交換の場である。(資料1)

2) 東アジア国際協力・教育研究センター設置準備室の開設

吉林大学・東北師範大学を中心とする東アジアにおける国際交流の推進・拡大に向けて、本研究科附属の東アジア国際協力・教育研究センターを平成22年度に設置することとしている。本年1月、本センター準備室を設置した。本準備室は、これまで東アジアの国際交流を推進してきた本研究科教員を配置したが、そのほとんどが本年4月のセンター設置とともに、専任教員3人、併任教員8人として活動することになっている。

本準備室の開設は、平成22年4月からのセンター設置の前提をなすものであり、本研究科における国際交流の発展の重要な契機をなすものである。すなわち、本学全体で推進しているO-NECUSプログラムにもとづく双方向学位制度による学生の派遣・受入に加えて、国際シンポジウムの企画などを通じての研究交流の拡大、語学研修による学生の国際性の涵養などの企画実施を組織的に保証するものである。(資料2)

資料1：地域公共政策コースと地域創生ネットワーク・アゴラの概要

地域公共政策コース：各分野の専門知識に加えて、政策評価手法・経営センス・公的使命感・倫理性を持った人材養成のために、教員と学外実務者が連携しながら総合的なカリキュラムによる教育を、地域創生ネットワーク・アゴラの活動とも連動しながら行っている。

地域創生ネットワーク・アゴラ

アゴラ構成員：社会文化科学研究科教員、岡山大学各研究科長、岡山県職員、岡山市職員、倉敷市職員、中国地方整備局職員、岡山商工会議所会員、岡山経済同友会会員、弁護士、司法書士、NPO法人代表など約60名

アゴラ講演会：2009.7.25, 2009.10.24, 学外者による講演会が催された

アゴラ開催：第1回2009.11.28, 第2回2010.3.27, 地域関係者及び院生の発表とそれに基づく意見交換を実施

(出典：社会文化科学研究科資料)

資料2：東アジア国際協力・教育研究センター設置にむけた活動

O-NECUS 留学生の受け入れ状況

平成20年4月受入	ダブルディグリー	2名	平成21年4月受入	ダブルディグリー	2名
平成20年10月受入	特別聴講学生	2名	平成21年10月受入	特別聴講学生	6名
			平成22年3月	ダブルディグリー	2名

関係研究教育活動等の一部(平成21年度分のみ)

清水耕一編著『地域統合 ヨーロッパの経験と東アジア』大学教育出版

榎本悟・成廣孝編著『地域間の統合・競争・協力』大学教育出版

荒木勝・鐸木道剛編著『東アジアの「もの」と「秩序」』大学教育出版

国際シンポジウム「東北アジアの幸福観」平成21年12月13日(日)

国際ワークショップ(法学系)「現代の権力論と人権」平成21年2月13日(土)

シンポジウム「越境地域間協力教育拠点づくり：研究成果報告会」平成21年3月10日(水)

(出典：社会文化科学研究科資料)